

観光調査法Ⅰ

科目ナンバリング STS-101

選択 2単位

花井 友美・小笠原 永隆・飯塚 遼

1. 授業の概要(ねらい)

「観光」という現象を理解するのに調査は有用な手法である。しかし、適切な方法で実施しないと、誤った結論を導くことがある。本授業では、調査とは何か、調査の意義を説明したうえで、様々な調査技法(質問紙調査、インタビュー調査、観察など)を概観するとともに、特に質問紙調査の特徴と実施方法について説明する。その上で、受講者は、演習形式で仮説検証型調査を前提とした質問紙を作成していく。
※学修効果の促進のため、授業は講義形式と演習形式をミックスして行う。演習はグループワーク形式で行う予定だが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては個人ワークに変更する場合もある。

2. 授業の到達目標

質問紙調査の特徴を理解する。

- ・質問紙調査が有効な場面を説明できる。
- ・質問紙調査の実施手順を説明できる。

仮説検証型調査を前提とした質問紙を作成できる。

- ・仮説を立てることができる(調査テーマは事前提示)。
- ・仮説を検証するために必要な質問項目を作ることができる。

3. 成績評価の方法および基準

授業内に実施する小テスト、小レポート、演習課題等 70%
レポート課題 30%

4. 教科書・参考文献

参考文献

轟亮・杉野勇 (2017)『入門・社会調査法[第3版]: 2ステップで基礎から学ぶ』 法律文化社
小田利勝 (2009)『社会調査法の基礎』 プレアデス出版
張 長平 (2014)『観光分析計量的アプローチと応用』 古今書院

5. 準備学修の内容

授業後には、授業内容や授業中に指示された事項について復習すること。

演習の前には準備課題(例:質問紙調査のテーマに関する情報収集、質問項目案の作成)を提示するので、事前に準備課題を行うこと。

6. その他履修上の注意事項

学修効果の促進のため、授業は講義形式と演習形式をミックスして行う。講義時と演習時で教室が異なるので注意すること。

演習形式の回は3クラスに分けて実施する。第3回目の講義時に演習クラス分けの発表を行う。

講義時の私語及び雑談は厳禁。

演習時は活発な議論及びグループワークへの積極的な参加を期待する。

受講者の内容理解度などにより、授業の進捗具合は変更の可能性がある。

第1回目、第12回目授業をオンラインで実施する予定である。ただし、授業の進捗状況により変更する可能性がある。その場合は、授業内で連絡する。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション【講義形式(オンライン授業)】
- 【第2回】 様々な調査法の特徴【講義形式】
- 【第3回】 質問紙調査の特徴／クラス分け発表【講義形式】
- 【第4回】 インタビュー演習(1)～アポイントから実施までの手順のシミュレーション【演習形式】
- 【第5回】 インタビュー演習(2)～半構造化インタビューの体験【演習形式】
- 【第6回】 調査テーマの発表／先行研究の調査【講義形式】
- 【第7回】 仮説検証型調査【講義形式】
- 【第8回】 仮説の設定(1)～アイデア出し【演習形式】
- 【第9回】 仮説の設定(2)～アイデアの文章化【演習形式】
- 【第10回】 質問項目の作成【講義形式】
- 【第11回】 質問紙の作成／結果の予想【講義形式】
- 【第12回】 調査対象の抽出と調査票の配布・回収方法／調査倫理【講義形式(オンライン授業)】
- 【第13回】 質問項目の作成(1)～質問項目案の作成【演習形式】
- 【第14回】 質問項目の作成(2)～質問項目案の確認【演習形式】
- 【第15回】 総括【講義形式】